



# 帝京平成大学 オープンキャンパス

## 薬学部

楽しく学ぼう！

2016 10 09

---

模擬授業  
体験実習  
オープンラボ  
ガイド



# 薬学部・オープンキャンパス タイムスケジュール

◆全体説明、学科説明、模擬授業（442教室4階）  
10:30～12:00

◆SGD室でSGDを体験してみよう（436教室（SGD室）4階）  
（スモールグループディスカッション） 1回目12:30 2回目13:30

◆オープンラボ（専門棟5 4階417）  
「タンパク質を見てみよう」  
11:00～14:00

◆オープンラボ（4階 437教室）  
「身の回りに潜む有害物質をはかる」  
11:00～14:00

◆学生交流・進学相談（アリーナ薬学部ブース 5階）  
「薬学のこと、薬剤師のこと、なんでも訊いてみよう」  
11:00～14:00

## その他（全学部共通）

学食体験	11:00-14:00	（学生食堂 1階）
入試・学生生活相談	11:00-14:00	（502教室 5階）
宿舎相談	11:00-14:00	（501教室 5階）

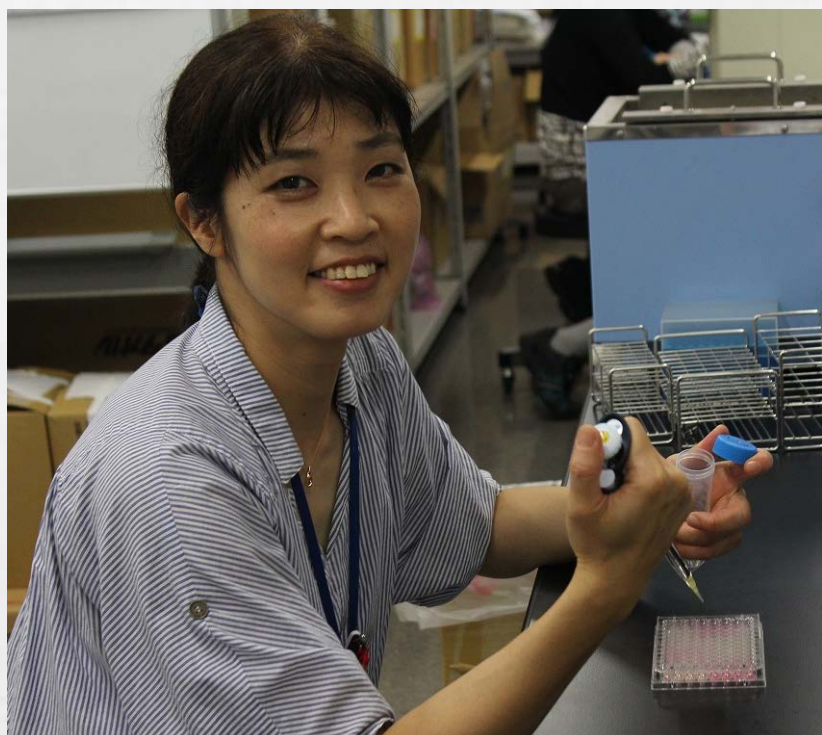


# 模擬授業 (11:20-12:00)

## 442教室 (4階)

### 毒と薬は使いよう

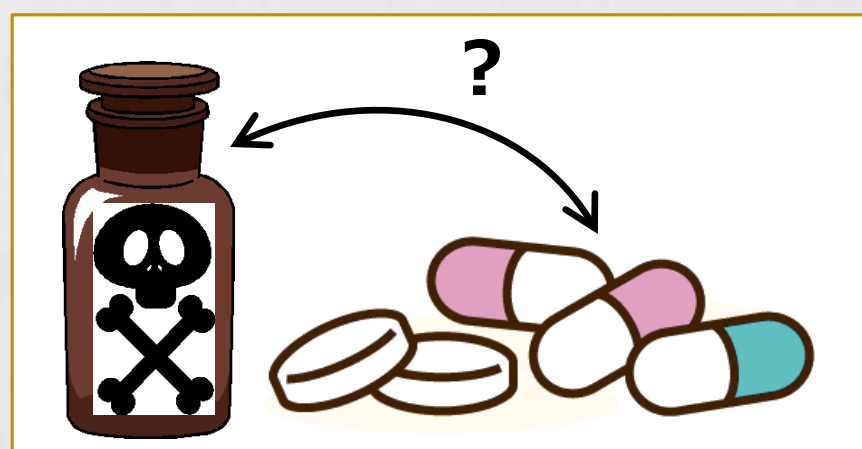
・毒と薬はヒトに生物活性を示す点では同じです。例えば、アオカビの成分から抗菌薬のペニシリンが作られた話は有名です。今回は毒とされていたものが薬になる例を主に解説します。



准教授 小川 裕子

星薬科大学薬学部薬学科卒業、博士（薬学）、星薬科大学助教を経て、現在帝京平成大学薬学部にて衛生の講義と化学系実習を担当しています。

薬剤師には常に新しい知識を取り入れて生かしていかなければなりません。授業は毎回、最近の薬学に関連するトピックの紹介から始めています。今回は何が取り上げられるのでしょうか？





## 体験実習

# SGD室でSGDを体験してみよう！

会場・時間

436教室 (SGD室) (4階)

第1回12:30~13:00/第2回13:30~14:00

- 薬学部では、薬剤師の役割などについて、SGD (スモール・グループ・ディスカッション) を行い、討論を通じて課題に対する理解を深めます。
- 帝京平成大学では、専用の教室を設置し、効果的にSGDを行っています。
- 専用の教室で、友人に帝京平成大学の印象を伝える資料を作成するSGDを体験してみましよう！



担当教員 社会薬学教育研究センター  
リスク評価学ユニット 教授 西村哲治  
薬事・情報学ユニット 教授 渡邊伸一



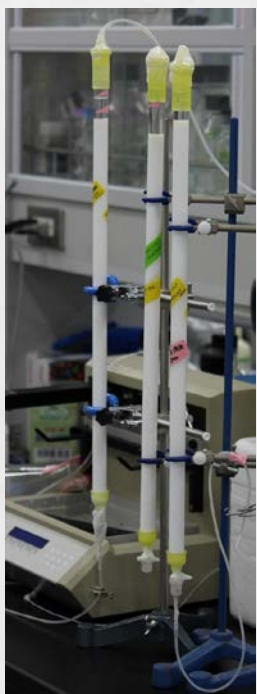
# オープンラボ

薬学のラボを体験しよう！！  
タンパク質を見てみよう

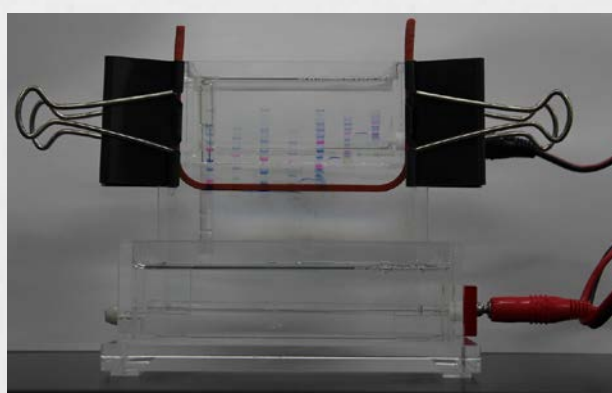
会場・時間

専門ラボ5 (4階 417) 11:00~14:00  
(見学随時)

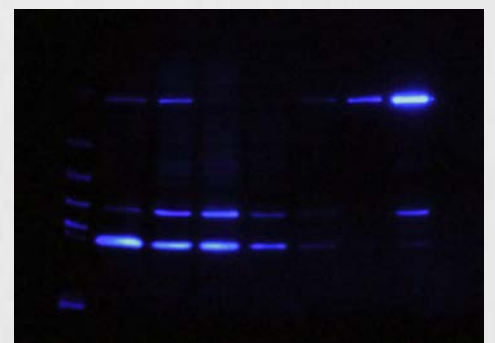
- ヒトの体を構成する重要な成分にタンパク質があり、約10万種類のタンパク質が存在すると考えられています。
- 私たちのラボでは唾液中の膜小胞の働きを調べています。この膜小胞には100種類以上のタンパク質が含まれているので、その中から感染症と戦うタンパク質や疾患の目印になるタンパク質を探しています。
- 今回のオープンラボでは①電気泳動やカラムクロマトグラフィーによるタンパク質の分離、②特定のタンパク質の発光による検出などのデモを行いますので、普段の研究を体験していただきたいと思います。



タンパク質分離用カラム



電気泳動装置



タンパク質の検出

- 担当教員

膜機能研究ユニット 小川裕子

細胞生化学研究ユニット 辻本雅文



# オープンラボ

## 身の回りに潜む有害物質をはかる

会場：437 教室（4階）

時間：11:00～14:00（随時）

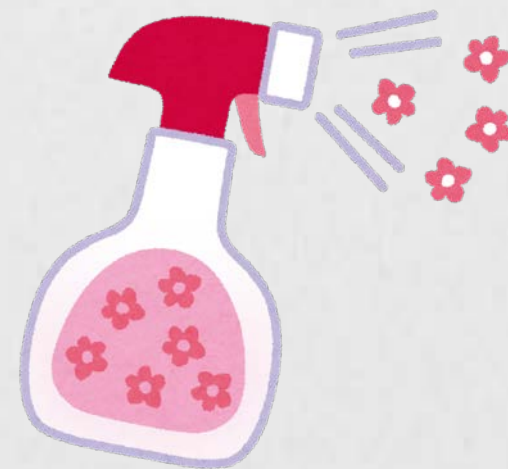
私たちの豊かな社会生活に欠かせない化学物質を、安全にかつ安心して利用するには、化学物質を適切に管理することが不可欠です。化学物質を管理するためには、化学物質の有害性とばくろ量\*を調べ、科学的手法によって健康リスク評価を行う必要があります。

（\*ばくろ量：触れたり吸ったり食べたりして体内に入る量）



今回のオープンラボでは、リスク評価の一環として実施した、身の回りの製品に含まれている可能性がある有害物質の分析例を紹介します。

（ラボの改修中のため、ポスターでのご説明のみになります。）



担当：医薬品機能教育研究部門

薬品分析学ユニット 伊佐間和郎

医薬解析学ユニット 谷 紀彦

